

活動名：宮崎遠征について

日 程：平成25年3月25（月）～28（木）

会 場：宮崎県

参 加：エンジョイ3～トップ6クラス 32名

帯 同：設楽・小松コーチ 協力：半澤（福島市こみち体操主宰）

対戦相手：半九レインボースポーツクラブさん、清武南さん、マリーバ

感 想：小松コーチ

今回のブログは時系列で追って行きたいと思います。どうぞお付き合いくださいませ。

●27日（月）集合22：30喜久田卸町体育館

いよいよ出発当日参加32名の選手はバスで車中泊のため出発前日の夜中22：30分に喜久田卸町体育館に集合しました。当日はとても寒く小雪が舞っていてそれは春とは言え厚手の上着が必要な夜となりましたが予定通り全員元気に集合出発しました。

車中での選手達は「ねなさい」と言うほうが無理な話です。お友達との車中泊もはじめての体験なのでしょう。はやる気持ちを抑えることがなかなかできませんでしたが夜の深まりもあり何人かは目を

つぶり始めました。もちろんその後はコーチの強制消灯です。何とか狭い車内で眠りに全員ついてくれました。

逆にコーチのほう大きい体をもてあまし足を抱えたり投げ出したりとかなり寝ずらそうでした。 実際は寝れたのかな???



●26日(火)羽田空港～

朝は6時頃には全員が起床して車中でお弁当を頂きました。しかし何人かの選手は寝心地が悪いのかお弁当を残す選手もいました。ある意味先が心配になります。ある程度の大会になると連日移動と試合を繰り返すきつい日程になります。この部分を考えるとどこでも寝れるどんなときでも3食食べれると言う強さも学んでいってほしいと思いました。

羽田空港ではほとんどの選手がはじめての航空チケットに搭乗手続き荷物の預け入れとどきどき度MAXでやりました。

空いた時間では、羽田空港の展望デッキに行ってきました。ここでは、東京の名所満載です。東京スカイツリーに恐竜の骨陸橋、海ほたるにピカチュウジェットに八重の桜ジェット晴れの天気と相まって出発に華を添えてくれました。どきどきしながら荷物を預けました。特にどきどきを通り越したのが身体検査です。みんなテレビでよくみる光景におっかなびっくりでした。

機内ではごう音とともに機体が浮いた瞬間はえもいわれぬ感動がありました。また機体から見える外の世界に一喜一憂していました。何もかもが初めてづくしです。こんな感動的な遠征はそう簡単に経験できません。



●宮崎到着～曇り

そうこうしているうちに宮崎に到着しました。宮崎空港ではレインボウスポーツクラブのクラブマネージャー沢山さんをはじめとするスタッフのみなさんがのぼりまで準備して頂いてあたたかく迎えてくれました。こんな場面で身をもって絆～きずな～を体験するとは思いませんでした。スポーツのもつ繋がりは無限大です。



ここからは宮崎県の宿泊訓練所へ移動しました。この訓練所、地元の小学生も使う訓練所ですがここがまた凄いところです。ひとことで言うならば自衛隊にほど近い訓練施設でした。

時間厳守と規律の厳しさは実生活を根底から叩き直すほどのものがありました。これには地元の小学生も大変お世話になるようです。スポーツが身近な宮崎県らしい取り組みだと思いました。お昼はこの施設で頂きました。ここにはさまざまなスタッフの方々が御一緒に頂きましたがなかでもびっくりしたのが現役の市議員の方がスタッフとして参加している点には驚きと感動がありました。

来賓としてではなく実際にジャージに身を包み選手の前で指導をかって出ていました。指導も実にフランクでナチュラル！このことにもスポーツ都市宣言宮崎が反映されていました。

施設のまわりに宮崎を代表するさまざまなグラウンドが隣接しています。

そこの一部をお借りして交流戦を企画して頂きました。ここには、半九レインボーさんと清武南さんが参加して頂きました。

6年生はガチで女子は選手混成で5、4、3、2、は人数調整をしながらの混成で楽しく戦いました。宮崎に来ていきなりの芝生のグラウンドでの交流戦にはすごく驚きました。この時期福島では芝生は考えられません。本当にありがたいことです。雪が基本的に降らないことはこんな幸せなスポーツ環境があります。うらやましいですね。

試合後日向夏やお菓子などをいただきピバキッズからはママドールを送りました。



その後時間通りにお風呂に選手全員で入り食事をレインボースポーツクラブと一緒にとり宮崎の災害について学ぶ時間となりました。

特に口蹄疫の話が印象的でした。福島での災害も宮崎からすれば非日常ですが口蹄疫はまさにその逆、どこでどうなるかわからないのが今の日本だとつくづく思いました。そんな思いをみんな

で発表し合い親睦を深めました。早いもので選手間はずでに友達としてなりたっている部分がありました。



その後レインボーさんの選手達とすべて相部屋を作り10:30には一齐に消灯し就寝しました。

● 27日（水）雨

朝からかなり強い雨が降っていますが今日も盛りだくさんの1日です。まずは時間通りに朝食をすまし訓練所の退出です。退出は訓練所教官の退出確認を受けてはじめて退出できます。言わばテストを受けて合格してからではないと退出できません。ここでも何人かの選手は教官に不合格をもらっていました。笑い話は、いの1番に教官に確認を申し出た部屋がありましたがいきなりの不合格それもコーチのニアミスあれほどクチすっぱく言ったコーチがひっかかりました。これには、選手から強い口調でコーチ！と失笑を誘っていました。

その後すべての部屋で合格を頂きいよいよアクティビティの始まりです。

本来は、農園で日向夏狩りと言うことでしたが雨でも海岸線のドライブ～鬼の洗濯岩を移動のバスから眺めました。それになんちゃってモアイ像！なんちゃって？なんて失礼ですね。

やはりどうしても時間がおしてくるのが旅行の読めないところです。日向夏も狩りから頂くに変更になりましたが御厚意あっての関わりです。結果的に食べきれないほどの日向夏を頂き大満足でした。

福島では食べることがないくだものです。心からありがとうございますと伝えたい思いがあります。

次に鶴戸神社へ行きました。こちらは日テレ系ZIPで放映された有名な神社です。ここの特徴は海沿いの岸壁に建てられており本堂はそんな岸壁の洞窟の中に建立してあります。この洞窟建立も目の前の海の景色と重なりこれぞ宮崎と言ったスペシャル感がありました。それにこの神社には運玉祈願があり運玉を男性は左手女性は右手で投げて自分の思いを成就して頂くと言う祈願があります。結果は皆様の御存知の通りです。日頃の選手をみて頂ければ納得してしまいますがここは宮崎、チョッピリサプライズも起こして頂きました。



いよいよ本日メインイベントシーカヤックです。このシーカヤック、何となく危険な香りがしてきますがここは、さすがのエスコートです。移動としては、それなりの時間はかかりましたが波がほとんどなく初心者のカヤックを開催するには贅沢すぎるほどの場所でした。ここは、宮崎ではシーカヤックの全国大会が開かれるほどのスポットのようです。

この会場でお昼のおにぎりを食べてカヤックをやりました。

到着と同時に選手は一目散に海にまっしぐらでした。こんな光景をみていると悔やまれる原子力発電所です。この答えは難しい問題ですが子供達をみていると守らなくてはならない自然があることを強く強く意識しました。

各選手救命胴衣を身に付けてレクチャーを受け6年生5年生から乗り出して行きました。目標は150メートルぐらい離れた無人島です。2人乗り1人乗りの違いはありますがサッカー同様すべて自分自身で判断して運転しなければなりません。各選手この面白さにはたくさんの笑顔がこぼれ落ちていました。残りの選手は船で無人島に送ってもらってそこで交代です。順々に交代が進むとカヤックに魅了され何度も何度も乗っている選手も居ました。童心にかえるとは久々に使いましたがこんなことを言うのでしょうか。忘れていました。

もちろん選手の童心はとどまることなく心をいっぱいにしてとうとう海に入って楽しんでいました。福島より暖かい海水温にあの透明度～私自身ワクワクで満たされ泳ぎたくなる衝動を抑えるのに必死でした。カヤックで楽しんでいる選手はエスコートしてもらっているレインボースタッフに反対岸の洞窟まで案内してもらい、なんとそこに上陸まで果たすと言った冒険もしました。ある選手は貝殻をたくさん拾いました。色やかたちは東北ではないもののようです。本当に楽しかったことでしょう。おそらくは各選手1番楽しく伝えたことはこのシーカヤックだと思います。





その後いちご狩り～夕食デザートとしていちごを頂きました。ここにも選手のたくさんの個性がありました。規定通りいちごを摘む選手、規定以上にうまく摘む選手、何度も何度も摘んだいちごを調整する選手、せっかくの宮崎いろいろ満喫してます。



とうとう夕方になり今夜は貸し切りコテージ泊です。設楽コーチの采配でのおの各コテージへ入って行きました。このコテージは温泉です。海で冷えた体には染み入るお湯となりました。タイミング的には桜の散り始め～部屋によっては露天風呂も完備されチャッカリお湯いれて楽しんでいる選手もいました。

入浴後のおまじかねは夕食です。時間がおして選手のお料理はできませんでしたが福島の子供達のためにちからになりたいとの考えから大学生が今夜のサポートスタッフとして参加してくれました。その中にはフランス人2名の方が居て流暢な日本語で選手のお世話をしてくれました。夕食メニューはカレーライス、地場野菜のサラダ、焼きそば、いちご、日向夏みかんでした。地場野菜のサラダではわさびの味がする野菜や食べたあと甘みがる新タマネギが印象的でした。みんな楽しそうに何度も何度もカレーライスをおかわりしていました。大満足の笑顔でお部屋へもどって行きました。



ここからは大人の時間となり先ほどのフランス人の方々と福島への避難所対応などの話しをし、興味津々と言う感じで聞き入っていました。この壮絶な体験は人に語り継がなければならない話の一つです。私もあらためて口蹄疫のお話を伺いました。最後はクラブ間の情報交換の話となった

ようです。設楽コーチは徹夜となってしまいました。私は途中で撃沈してしまいました寝れたのかと聞かれれば間違いなく???です。

人と人の関わりは不思議なものです。そこには答えなどは、ないかもしれません。しかしその絆の深さは本物の深さです。絆をスポーツで1つのかたちにしていく～なんてすばらしい事業なんだろうとまわりの方々に感謝せずにはられません。

●28日(木)快晴

とうとう最終日となってしまいました。今日はサッカーと余暇のバランスのとれた行程です。今日の交流戦は全国大会出場で素晴らしい成績をおさめたアリーバさんとの試合を組んで頂きました。

最近の宮崎は全国高校サッカーでの優勝以来全国から熱いまなざしをうけています。そんな意味では全国屈指のサッカーどころです。そんなチームとの試合をこれまたすごい人工芝ドームと天然芝でやって頂けるなんて経験はもう絶対ないことの1つとなることでしょう。しかしそこでもまた時間がおしてしまい沢山さんなどにご迷惑をかけてしまいました。すみませんでした。選手もこんなすばらしい人工芝ドームでプレーできるなんて見ただけでテンションが上がってました。

試合はやはり経験の差からかやはり全国の壁をまざまざと感ずることとなりました。がしかし選手の気質、チームカラー、指導アプローチ、には相通じる部分も多く指導者同士のお話ではアーレの指導理念にまた確信を深めました。





短い時間でしたが本当に勉強させて頂きました。ありがとうございました。

午後余暇の時間と言うことでこどものくんに連れてって頂きました。ここは民間娯楽施設になり各選手思い思いに時間を使って楽しんでいました。この楽しみにはチームから1人3000円のおこずかいがあり個人で昼食をとると言うことにしました。宮崎らしいものを食べる選手、さっぱりしたもの、アイスクリームですませる選手、ジャンクフードなどここでも個性がみれました。ただ集合時間にまた遅れる選手がいてこのことは今後の指導課題の1つです。社会にでても大変必要で大切なスキルです。小さい時から丁寧に指導していきたいです。



ということで帰るときとなってしまいました。帰りたくない気持ちを抑えながらあっつっつと言う間の宮崎遠征も終わりをむかえるときに来ています。

空港へ到着してしまいました。空港にはレインボーのスタッフさんや代表の選手達がお見送りに来てくれて居ました。そこでまた最後の愛情のこもった日向夏と日向夏ドリンクを頂きました。いよいよおわかれ会と言うときになっ、なっ、なんと！16：55に搭乗する飛行機が18：15に搭乗と言う”遅れ”に直面しました。そんな”遅れ”にもレインボーのスタッフさんや選手はずっつと一緒に来てくれました。

結果的言えばここでも絆~きずな~です。この遠征で私達は1つのチームになっていました。それは名残惜しいと言うレベルではなく大好きなお友達が1人減るぐらいのさみしさがありました。

私、小松本人は涙を抑えるのに必死でした。お恥ずかしながらおえつですね。

空港でのお土産タイムも終わり最後のおわかれ会です。おわかれ会ではレインボースタッフさん達との握手にスタッフ「うしちゃん」から愛情たっぷりの冊子を3冊も頂きました。宮崎での選手の笑顔がこれでもか！と言うほどたくさん載っていました。

すべてにおいて選手の移動はレインボースポーツクラブのマイクロバスを使わせて頂き運転までしてもらいました。

また2泊の宿泊、食事、シーカヤック、いちご狩り、こどものくに入場、選手各個人へのお土産などはすべてレインボースポーツクラブさんによる負担でした。

本当になにからなにまでお世話になりました。



少なからず言えるのは選手達の人生にたくさんの刺激を頂きました。この刺激は人生の宝物として強烈に記憶に残っていきます。活きた勉強をさせてもらいました。スポーツって本当に生きてく上で必要なものです。これからもスポーツを通して生きる喜びに触れていけたらと思います。約1時間遅れで羽田に到着しバスで帰宅です。羽田空港もさすがになれたものです。～もういっぱいしのトラベラーです。

バスではあいかわらず寝る気配すらありません。しかし翌日は小学校の離任式です。せっかくの出会いと別れに寝不足は許されません。なので強制消灯です。

今回の遠征では1人1人の選手の成長が特によかったです。宮崎のなせる技なのか～忘れ物も少なくチームとしてのまとまりもよくけんか、わがママがなく常に笑顔で心から宮崎を楽しんでいました。最初はどうなることかと心配もしましたがいらぬ心配でした。時間の遅れ以外は本当によくやってくれました。かわいい子には旅をさせろとよく言いますが本当にちょっぴり大人感が出てきた部分もあると思います。

今回の遠征たくさんの参加とご理解本当にありがとうございました。

行きのバスの運転手さんは池谷ゆうた君のお父さんでした。夜通し本当に御苦勞様でした。

それではこのへんで終了と致します。ただ私達参加スタッフも歳をとったのでしょうか。いまだに疲れが抜けません。この疲れとともに宮崎遠征を振り返る日々です。

ありがとうございました。

小松大輔